

- ・樹齢 13 年生になると、樹間が 5 m では樹と樹が接するため、縮伐・間伐を要する（図-65 参照）。
- ・岡山甘栗は、ニホングリに比べ、樹姿が直立性であり、樹形が横方向より上方向に大きくなりやすい。
- ・樹高が一たび大きくなってしまえば、その後、せん定や縮伐により低樹高に誘導するのは大変手間を要するため、毎年、適宜、せん定作業等を実施する。
- ・栽培園地に広さ（ゆとり）がある場合、密植栽培より、樹間 6 m 以上広く確保する方が、樹形を開心形に誘導しやすく、かつ間伐個体数も最小限に抑えることができる。

## 7 収穫作業

- ・県北部におけるクリ収穫時期は、「岡山 1 号」では 10 月上旬～中旬、「岡山 3 号」では 10 月中旬～下旬である。
- ・「岡山 1 号」は、一部、11 月以降、2 度咲きによる収穫も一部期待できる。
- ・収穫は自然落果によるものを基本とし、落果後は果実品質を保つため、速やかに収穫を行う。
- ・収穫方法は慣行（手作業）、機械（器具）等が挙げられる（表-11、図-66～67 参照）。作業効率だけみると、どの収穫方法も大差はない。
- ・現時点では、生産コストが低いこと（表-12 参照）や、屈まらずに作業ができる点で、簡易な収穫器具を使用する方法が最も有効である（図-67 参照）。

表-11 収穫方法別作業時間の比較

| 品 種  | 収穫方法   | 栽培規模別作業時間 |          |         | 備 考                 |
|------|--------|-----------|----------|---------|---------------------|
|      |        | (hr/10a)  | (hr/50a) | (hr/ha) |                     |
| 岡山1号 | 手 作 業  | 3.7       | 18.3     | 36.6    |                     |
|      | 収穫用ネット | 3.6       | 18.0     | 36.1    | メッシュ:4mm サイズ:6m×12m |
|      | 収穫機械   | 3.6       | 18.2     | 36.3    | 収穫機械                |
|      | 収穫器具   | 3.5       | 17.4     | 34.7    | 収穫器具                |

注)10a当たり岡山1号200kgの収量を想定

表-12 収穫方法別生産コストの比較

| 品 種  | 収穫方法   | 生産コスト   |           |           | 備 考                 |
|------|--------|---------|-----------|-----------|---------------------|
|      |        | (円/10a) | (円/50a)   | (円/ha)    |                     |
| 岡山1号 | 手作業    | 19,648  | 98,240    | 196,480   |                     |
|      | 収穫用ネット | 267,350 | 1,336,749 | 2,673,498 | メッシュ:4mm サイズ:6m×12m |
|      | 収穫機械   | 199,499 | 277,494   | 374,989   | 収穫機械                |
|      | 収穫器具   | 55,354  | 129,891   | 223,063   | 収穫器具                |

注1)10a当たり岡山1号200kgの収量を想定

2)作業1人当たり1日6時間勤務とし、日公共工事設計労務単価を参考にして16,100円

3)生産コストには労賃、資材費、機械購入費、燃料費をそれぞれ含む

出典：西山（2016b、2017a、2020a）



図-66 収穫ネット及び収穫機械による収穫  
(上段：収穫ネット 下段：収穫機械)

- ・収穫用ネットは、ネット設置の労力・コスト、収穫機械は作業性・操作性にそれぞれ課題がある (図-66 参照)。
- ・収穫器具を用いれば、クリの収穫作業を屈まずできる点が作業軽減の最大のセールスポイントである (図-67 参照)。
- ・専用バケットを用いれば、直接、クりに手を触れず、収穫することができる (図-67 参照)。
- ・収穫作業に合わせ、園外へイガを持ち出しておく (図-68 参照)、後々のイガ片づけ作業が軽減される。



図-67 簡易な収穫器具による収穫作業  
(左側：収穫器具 右側：専用バケット)

- ・大規模栽培においては、収穫方法（収穫機械等）を検討する（表－13 参照）。

表－13 収穫方法の検討

| 項目   | 手作業                 | クリ収穫機 | 収穫用ネット  | 収穫器具                |
|------|---------------------|-------|---------|---------------------|
| 栽培面積 | 小面積向き               | 大面積向き | 小～中面積向き | 小～中面積向き             |
| 作業人数 | 1人でも可<br>(栽培面積で変わる) | 2人で可  | 2人以上    | 1人でも可<br>(栽培面積で変わる) |
| 作業能率 | 徐々に低下               | 一定    | 一定      | 一定                  |



図－68 園外へのイガ持ち出し

(左側：勝央町河原地内 右側：県森林研究所内)

- ・自然落果後、園内から、イガを速やかに持ち出し、処理するのが望ましい（図－68 参照）。
- ・冬季、イガのきゅう肉、または土中に、果実害虫の幼虫（クリシギゾウムシ、モモノゴマダラノメイガ等）が潜り、越冬する。翌年、上記果実害虫の発生源となる可能性もあるので注意する。

## 8 選果作業

- ・クリの収穫はその日の早い時間帯で済ませ、速やかに選果作業を行う。
- ・果実は、選果台等を使って虫害果、裂果、腐敗果などの不良果を取り除く（図－69～73 参照）。
- ・収穫時におけるクリの汚れを落とすとともに、乾いたタオル等でクリに付着した水分を取り除く。
- ・クリの選果台（図－69 参照）があれば、クリの汚れを拭き取り、かつ付着したゴミも、落下し、取り除くことができる。
- ・明るい環境下で、虫害果は産卵痕、腐敗果は外側から押した時の硬さをチェックする。
- ・場合によっては、水選し、不良果を取り除く（図－74 参照）。その後、日陰で風に当てる等して速やかに乾かす。